【 54 】

氏名	宮 田 輝 雄
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1572 号
学位授与の日付	昭和60年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	**股関節石灰化の病態に関する研究**
論文審査委員	教授 寺本 滋　教授 折田薫三　教授 村上宅郎

学位論文内容の要旨

股関節においても膝関節と同様に，石灰化症の発症が知られている。しかし，本邦では股関節障害と石灰化との関係については，ほとんど研究されていない。本研究では，手術時摘出標本と解剖体標本を光顕観察し，一部は走査電顕観察を行なった。手術例214体中30股（14％）に組織学的石灰化を，また解剖体例55体中6股（11％）に肉眼的に石灰化を認めた。石灰化は，関節軟骨，関節唇，滑膜内にみられた。関節軟骨では表層および中間層の軟骨基質内に顆粒状の集塊として，また，中間層の軟骨細胞小窩周囲に斑点状の石灰沈着を認めた。関節唇での石灰沈着は，関節面直下と中間層の膠原線維のき裂に沿って認められた。結晶は短径0.1～3.5μm長径0.2～4.0μmで，四角柱状，棒状あるいは立方体状を呈し，典型的なピロ燐酸カルシウム（CPPDと略す）結晶であった。人工股関節置換術を要するような高度な股関節破壊病変を有するいわゆる二次性変股症の中には，CPPD結晶沈着症を合併するものがかなりあることが考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究は股関節外科領域に関する臨床的研究であるが，手術例および解剖体例の股関節におけるピロ燐酸カルシウム結晶の沈着を証明し，股関節障害と石灰化との関係について重要な知見を得たものであって価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。